



学校通信

平成29年度 第5号
平成29年 9月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 土屋 信行

真ん中

校長 土屋 信行

～よくオヤジがこう言った。「一尺のものさしの真ん中は、左から五寸、右から五寸の一点をさすのではなくて、片方から四寸、もう片方から四寸、その間の二寸が真ん中である。そうでないと話し合いはできない。」～

これは、本田技研工業の創業者本田宗一郎氏の残した言葉です。以前も述べましたが、子供の頃から正論でよく人を傷付けてきた私は、大人になってこの言葉を知ったとき、「う～ん」と、うなっていました。そしてこの言葉は、その後の私の人との付き合い方に大きな影響を与えてくれました。具体的には、何かを決めるとき、その内容にもよりますが、結論を出すことを急ぎ過ぎず、他の人の話を聴ける、待てるようになったと思います。

勿論、今は校長ですので、すぐに判断・決断しなければならない案件もあることは事実です。また、全体のことを考え、好むと好まざるとにかかわらず、立場でものを言わなければならないことも数多くあります。しかし、そうでないこと、自分個人として意見を述べられるときには、自分の考えに固執することが少なくなりました。「どのように決まっても、皆が気持ちよく過ごせればそれでよし」と思えるようになってきたのです。

子供の話し合いでも、大人の話し合いでも、上手にまとめられる人とそうでない人がいます。その違いは、この言葉の考え方に表れているように思います。教師、保護者、子供のそれぞれの関係の中でも、話し合いの様子を見ていますと、一人一人にこの考え方の違いは、はっきりと表れてきます。

「幅」「ゆとり」「あそび」というような表現を昔の日本人はよく使いましたが、最近ではどうでしょう。何でも（自分の思い通りに）きちんとしないと気が済まない人が増えているのではないのでしょうか。それはそれで大切なことですが、そればかりですと疲れてしまうのも事実です。些細なことで諍いが起きてしまうのも、この辺りに原因があるようにも思います。真ん中を中央の一点と考えると、「ここしかない」「これしかない」という考えに行き着き、そこを譲れないとき、譲れない人はどうしても他者とぶつかることが避けられなくなるのでしょうか。やはり考え方の「幅」は大事にしたいものですね。

さあ、二学期が始まりました。子供たちの心と体が大きく成長するときです。校庭工事や各種行事で何かと気ぜわしくなりますが、「幅」「ゆとり」「あそび」も大切に、皆が穏やかな気持ちで過ごせることを願っています。

